

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2790800136		
法人名	社会福祉法人 浪速松楓会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 サボテンの花		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市東住吉区西今川4-22-11		
自己評価作成日	令和6年1月11日	評価結果市町村受理日	令和6年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

訴えがあれば近隣のコンビニエンスストアへ外出し、好む食事・おやつの買い出しをしたりする機会を設けている。誕生日にはその日に食べたいものを確認し、提供できるよう努めている。季節に応じた行事や食事・おやつレクリエーションはフロア毎で最低月1回は実施し、四季を感じて頂く様対応している。利用者様の異常の早期発見に努めており、毎日バイタル測定を実施し、些細な状態変化であっても気づくことが出来る様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人ホーム等の介護事業や保育園、地域活動を展開している社会福祉法人が運営するグループホームです。「ご利用者様がその人らしい『生き方』『暮らし方』ができて、対象者の心の花が咲くように温かい心を持ち続けて支援させていただく」を理念に掲げ、「認知症の症状を問題行動として捉えるのではなく、訴えや行動に対して理解し続けようとする姿勢で要望の実現を目指す」をミッションとし、認知症ケアにとことん向き合う支援を実践しています。コロナ禍の中でも「コロナだからできない」のではなく、様々な工夫で外出や日常の楽しみ事を作ってきました。管理者は職員との関係づくりにおいて「聞くこと」を最大限に努力し、その中で生まれた働きやすい職場環境は、職員の定着に繋がっています。大阪メトロの最寄り駅から徒歩2分の交通至便な建物の1階では、就労支援事業や子ども食堂を開始する予定で、地域との新しい交流も期待されます。「めったに花が咲かない『サボテンの花』の花言葉のように『温かい心』で根気よくケアすることで利用者さんの心にも花が咲く」とのホームの名前への思いを大切に、管理者以下職員一丸となり支援しているグループホームです。

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2790800136-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	令和6年2月8日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、地域密着型サービスの意義や立ち位置を理解した上でフロアーに掲示している理念を確認している	「ご利用者様がその人らしい『生き方』『暮らし方』ができて 対象者の心の花が咲くように温かい心を持ち続けて支援させていただく」を理念に掲げています。また「認知症の症状を問題行動として捉えるのではなく、訴えや行動に対して理解し続けようとする姿勢で要望の実現を目指す」をミッションとし、認知症ケアにとことん向き合う支援を実践しています。ホームの名前には「めったに花が咲かない『サボテンの花』の花言葉のように、『温かい心』で根気よくケアすることで利用者さんの心にも花が咲く」との思いが込められています。理念は各フロアに掲示しています。管理者は職員に「つらくなったら理念を見てリセットしよう」と伝えています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の把握に努めており、感染症対策に注意しながら参加を促し、近隣のコンビニへ外出することはある	事業計画に「地域から頼られる事業所」を掲げ、地域との交流には積極的に取り組む姿勢です。区社協の事業である、日常のちょっとした困りごとを地域の住民同士支えあい、住み慣れた家・地域での安心した生活を支援する「とんずみサポート」の活動にも参加しています。建物の1階では就労支援事業や子ども食堂が始まる予定で、職員や管理者は新しい地域との交流を楽しみにしています。	近日中にスタートする就労支援や子ども食堂を通して地域との新しい交流が期待されます。また、長年積み重ねた認知症ケアの知識や技術を、地域の認知症に対する啓発に活かす活動が、今後一層広がることが期待されます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際は、認知症の症状・対応について話し合う機会を設け、認知症を理解できる様努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第3土曜日に定期開催(2ヶ月に1回は事業所開催。)参加者は、利用者、家族、町会長、民生委員協議会委員長、地域包括支援センター職員を選定している	町会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族等の参加で開催しています。会議では、主にホームの状況、行事の内容等を報告、説明し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしています。また、「近くに来る相撲部屋の見学が出来たら良い経験になるのでは」などの提案をもらう事もあります。事故が発生していないことや積極的な実習生の受け入れなどへの高い評価は、職員の励みにもなっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	大阪市福祉局高齢者施策部高齢施設課には、施設運営上の疑問点等があると問い合わせや来庁しご指導頂いている	困りごとがあったら大阪市福祉局高齢者施策部高齢施設課に相談しています。また、区のグループホーム連絡会にも出席し、情報交換や連携に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束等の適正化対策委員会を実施しており、身体拘束廃止の理解を深め、知識の向上に努めている	3か月に1回、身体拘束等の適正化対策委員会を開催、フロア会議では身体拘束に関する研修も実施しています。身体拘束のケースはありません。管理者は気兼ねなく有給休暇を取得できる環境づくりに努め、職員のストレスにも配慮しながら勤務表を作成をしています。「休むことを責めない」「プライベートを大切にしてほしい」との考えです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修計画に盛り込んでおり、管理者はフロアのモニターも確認して防止に取り組んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市民後見人制度や成年後見人制度の理解が出来るよう希望する方へは都度説明している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、重要事項説明書を十分説明を行い、その内容・利用料金を理解及び同意頂いた上で契約の締結をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回担当職員が日々の様子を写真付きの書面に記入し、家族に送付し、家族様へ電話連絡する機会があれば近況の様子を報告している	コロナ禍での家族の面会は、非常階段を使っ ての面会でしたが、現在は自由になっていま す。駅から徒歩2分の立地条件は家族も訪問 しやすく、面会は多い状況です。毎月担当職 員が送る利用者の生活の様子を書いたお知 らせは、一人ひとりの表情が伝わる温かい内 容となっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が出勤時は必ず各フロアに行く機 会を設け、現場の状況を把握した上で意見 を聞いたり、問題点を見つける様心掛けて いる	毎月、フロア毎に開催している会議では、行 事や業務についての話し合いや利用者一人 一人のカンファレンスも行っています。リー ダー・計画作成担当者の会議名は「花咲く会 議」と名づけられ、「利用者の心の花が咲くよ うに」と意見交換がなされています。管理者 は職員が働きやすい職場環境づくりに積極 的に取り組み、職員の定着に繋がっていま す。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環境 条件の整備に努めている	代表者は、事業所に来ることは無く、把握で きないため、管理者が把握し、報告している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくこと を進めている	法人内研修は年間計画表に基づいて法人 が選定し、資料及び研修報告書を回覧し、 感想文の提出を指示している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	東住吉区のグループホーム連絡会には参 加し、学んだ事を共有する事でサービスの 質の向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前には本人のアセスメントを 行い、本人、家族の困っている事、不安要 望を聞きとり、本人、家族が何でも話せる様 な関係作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人、家族の訴えを聞く機会を多く持ち、必要な情報を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に本人の意向、家族の要望等を勘案して、基本的には在宅生活の継続を勧めているが、在宅生活の継続が困難であれば入所するべきかどうか、家族、利用者に判断して頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活習慣や価値観を重視し、認知症ケアを最重視して対応することでBPSDの解消に努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者が望む生活を送る事が出来る様、家族の協力も得て関係を築く様にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしてきたものや、馴染みのものは極力持って来て頂ける様説明している	職員は、これまでの馴染みの関係をできるだけ継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。定期的に馴染みの商店街に出かけたり、訪問予定のある裁縫のお弟子さんを待つ利用者もいます。また、屋上から慣れ親しんだ家並みなどを眺めることで、思い出したり語ったりすることからも馴染みの場所との関係が継続しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員も会話に加わり、人間関係が円滑になる様、レクリエーション等を通して利用者同士が会話をする様な機会を設けている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用契約が終了しても、ご相談等の連絡があれば対応しており、転居先には積極的に面会に行くよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前には必ず本人、家族の意向を聞いており、日常生活の中で本人とのコミュニケーションを密に行う事で意向を把握する様にしている	職員と利用者を担当制にすることで、利用者一人ひとりの事がより深く理解できるようになっています。フロア会議では「入居者様の思いへの対応」の議題を設け、その人らしい支援に繋げています。また、日常のケアの中での気づきや発見は、小さなことでも記録に残し、職員間で共有し毎日の支援に活かしています。管理者は良好な関係づくりの中で「食べたいものを訴えられることの幸せ」を職員に伝えています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの情報提供を基に、本人とのコミュニケーションを通してより詳しい生活歴、趣味、嗜好等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後1か月程度は本人の状態を把握するためにも記録を密に収集し、本人のADLや様子を把握した上で、個別援助が出来る様努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	24時間シートを、ケアプラン更新時には都度見直し、ケアの統一を図っており、日々のケアに繋げている	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。毎月の会議で利用者一人ひとりのカンファレンスを行い、介護計画に反映させています。計画の見直しは6か月毎に行い、状態に変化があれば随時更新しています。介護計画を見て、担当者が24時間シートを作っています。計画作成担当者は「何かひとつでも楽しみ事が叶う計画」を心がけて計画作成にあたっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきがあれば計画作成担当者、管理者に報告し、些細な状態変化であっても記録に残し、状態の変化を観察している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用を希望された家族にも対応出来るサービス及び在宅生活での継続についての他の介護保険上のサービス利用も説明している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣区の地域包括支援センターを把握しており、本人にとって必要な地域資源は提示している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時には本人、家族の要望を確認し、希望される医療機関で医療を受けられる様支援しているが、利用者、家族の希望があれば、提携医療機関の診療を受ける事が出来る旨説明している	協力医療機関から月2回の内科医の訪問診療と週1回の訪問看護があり、24時間オンコール体制を整えています。利用者と家族等は協力医療機関の内科医を含めてかかりつけ医を自由に選ぶことができます。往診が可能なかかりつけ医を独自に指定する利用者もいます。歯科と精神科も往診が可能です。その他科の受診は原則、家族等が同しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師が1週間に1度定期訪問し、24時間連絡が取れるオンコール体制を構築しており、正看護師1名も同等の対応を実施している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は定期的に計画作成担当者、管理者が病院や家族に連絡し、本人の状態を把握する様努め、早期退院に向けた情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	実際に重度化した場合及び重度化する可能性がある場合は、必ず家族とまず事業所として対応が出来る事を説明し、方向性を話し合う事としている	重度化した際や終末期の指針を作り、契約時に容態の急変時の救急対応や延命治療と合わせて説明しています。事業所では終末期は医療機関でのケアを勧めていますが、希望すれば医療機関と連携して看取りも可能です。今年度は1件の看取りを実施しました。「エンゼルケア(死後処理)の際、業者さんからきれいな体で大切にケアされた様子がうかがえたと報告を受けました」と家族から感謝の声が寄せられました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や初期対応については外部研修にて教育を受けており、他の職員へ通達している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は年2回夜間、昼間想定として各1回ずつ5月、11月に定期的実施しており、防災訓練は1年に1回6月に実施している	ハザードマップと共に防災・防火対策マニュアルを備え、消防署の協力で年2回、火災避難訓練を実施しています。その他年1回、大阪消防振興協会の動画上映による防災の自主訓練を行っています。1階と4階の倉庫に3日分の水、米、レトルト食品等の食糧と衛生用品を備蓄しています。	防災対策では地域との協力が欠かせません。運営推進会議では避難訓練の報告をしていますが、さらに一歩進めて避難訓練への参加を呼びかけてみてはいかかでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には利用者に対する接遇に注意を払う様指導しており、管理者は出来るだけフロアで仕事をし、気にかかる職員がいれば都度注意している	利用者の尊厳とプライバシーの確保については、職員の入職時の接遇研修や法人内の伝達研修等で伝えるほか、実習生を含めて現場で不適切な言葉や対応があれば、管理者がその都度指摘し、助言しています。言葉遣いでは敬語の使い方だけでなくニュアンス、声のトーンによっても尊厳を傷けることがあると指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定が出来る様な声掛けや対応を心掛けており、うまく自己表出が困難な利用者にはその他の発言から主訴を導くことが出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人一人の生活リズムを大切に、日常生活の継続を支援している。レクリエーションや行事は、利用者自身が参加するかどうかを確認している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやお洒落を継続出来る様に、化粧の持ち込み等を容認し、本人、家族の想いを尊重している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物の訴えがあると、訴えを実現できる様自身のお小遣いを使用し、職員が代わりに購入する事もある	ご飯と汁物をユニットで手作りし、おかずはクックチル(低温調理)食品を導入しています。嚥下や状態に合わせて刻みやミキサー食にも対応しています。事業所では食事を楽しみの大きな要素と捉え、外食や出前、テイクアウト等も可能な限り取り入れて利用者の「食べたい」に応えています。たこ焼きなど作りながら食べるおやつレクリエーションも多く、風呂上りにノンアルコールビールを嗜む利用者もいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	最低1日1000cc以上は水分を摂って頂ける様計算して提供しており、本人の禁止食や嗜好に対応し、嚥下、咀嚼状態を把握した上でミキサー食も提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、口腔内の清潔保持に努め、必要や希望に応じて歯科往診を依頼する事もある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者が自分で出来る事については見極め極力見守りながら、状況に合わせて支援している	各ユニットに洗面所を兼ねた広いトイレが3カ所あり、同性介助に対応しています。排泄チェックシートを付け、利用者一人ひとりの残存能力のほか、快適を優先する視点で排泄支援しています。夜間は本人の意向のほか「入眠」を大切にして、トイレとおムツ(リハビリパンツ含む)の利用者が半々になっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者が自分で出来る事については見極め極力見守りながら、状況に合わせて支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎回入浴時は一人一人お湯を交換洗浄し、好みの湯加減で希望者には入浴剤を使用して入浴して頂いている	利用者は週2回、午前と昼間に入浴しています。同性介助にも対応し、1人または2人介助で毎回湯を入れ替えて実施しています。可能な限り湯船に浸かるようにしていますが、無理な場合はシャワーチェアにミスト装置を取り付けて温浴効果を高めています。希望があれば好みの石鹸やシャンプー、入浴剤も使えます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや生活習慣を大切に、その人らしい生活を送れる様支援しており、入床時間、起床時間については本人に合わせており、職員から臥床、離床の強要はしていない		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、本人の使用している薬や内服薬の用法や用量を理解して服薬しており、薬情を保管しているので何かあれば確認できるようになっている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野や好み等を把握し、楽しみや役割を持って生活して頂ける様に毎月最低1回は季節に応じた行事を行っており、利用者からの要望の実現を図る様努力している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば都度個別にたいおうしており、複数人重なったとしても調整して対応できるように努めている	日頃から外出の要望を聞き、近隣にある公園のほかコンビニや商店街でおやつを買ったり、ドーナツ屋に出かけたり、食べる楽しみとセットにした外出にも力を入れています。外出をあまり好まない利用者も屋上で外気浴をしています。近隣に相撲部屋があり、春の大相撲大阪場所では、希望者を募って力士に会いに行く話が出ています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは事務所内の金庫で預かっており、本人が希望すれば使用できる状況であり、必要な物品があれば、職員が代わりに買い物へ出かける事もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話であれば常に連絡をとれる状況にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2、3階部分が居住空間となっている。食堂兼居間には畳スペースがあり、ソファやテレビを置いて、ゆっくりくつろぐスペースを用意している	居間兼食堂や廊下に利用者と職員と一緒に作った四季折々のクラフトを飾り、季節感を盛り上げています。オープンキッチンのある居間兼食堂では、訪問時、利用者は食卓を囲んで座り、新聞を読んだりペンを手に書き物をしたり、職員と会話したりしていました。畳間はテレビや空気清浄機を置いていますが、段差が大きいため現在、居間としては使用されていません。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間には畳を敷いたスペースにて、テレビ・空気清浄機を設置しており、フロアのテーブルには利用者分の椅子を用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には電動ベッドとクローゼットを備え付けており、ベッドの位置は状態に合わせて変更できる造りとなっている	温かみのあるフローリングの部屋に電動ベッドとエアコン、造り付けチェスト、防災カーテン、毛布を備えています。利用者や家族はタンスや整理棚、テレビ、仏壇等を持ち込み、写真や雑貨、人形を飾るなどしています。居室担当者は利用者の意向を踏まえ本人の写真や趣味のポスター、12月にはクリスマスの飾り付けをするなどして部屋作りを支援しています。玄関の表札の下にも居室担当者が定期的に行ったスナップ写真の額を取り付けています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアの廊下、トイレ、浴室には適切な手すりを設置して折り、苑内では車椅子を極力使用せず、職員が手引きでの歩行介助実施し、歩行生活の継続を図っている		